

1. 件 名：新規制基準適合性審査に関する事業者ヒアリング（島根2号機 設計及び工事計画）【410】
2. 日 時：令和5年2月28日 13時30分～15時30分
3. 場 所：原子力規制庁 9階D会議室（TV会議システムを利用）
4. 出席者（※・・・TV会議システムによる出席）

原子力規制庁：

新基準適合性審査チーム

忠内安全規制調整官、千明主任安全審査官、中村主任安全審査官、

服部(正)主任安全審査官、三浦主任安全審査官、谷口技術参与

技術基盤グループ

大橋技術研究調査官

事業者：

中国電力株式会社

電源事業本部 担当部長（電源土木） 他4名

電源事業本部 担当部長（原子力管理） 他21名※

中部電力株式会社

原子力本部 原子力土建部 設計管理グループ 担当※

電源開発株式会社

原子力事業本部 原子力技術部 設備技術室 課長 他2名※

5. 自動文字起こし結果

別紙のとおり

※音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

なお、本ヒアリングについては、事業者から一部対面での開催の希望があったため、「まん延防止等重点措置の解除を踏まえた原子力規制委員会の対応」（令和4年3月23日 第73回原子力規制委員会 配布資料2）を踏まえ、一部対面で実施した。

6. 配付資料

なし

時間	自動文字起こし結果
0:00:02	既設のチギラです。島根原子力発電所 2 号機設工認のヒアリングを始めます。
0:00:07	本日の説明項目は、保管アクセスの鉄塔関係のコメント回答と耐震の地下水位低下設備関係のコメント回答となります。
0:00:18	それでは資料の確認と、ヒアリングの進め方について説明をお願いいたします。
0:00:31	中国電力のイタイガワです。本日、ヒアリングの進め方を先に説明させていただきます。
0:00:38	藤。
0:00:39	大きく分けて三つございます。
0:00:44	最初に耐震基本方針の地下水位低下設備及び耐震計算書の地下水位、仮設備の
0:00:52	コメント回答について説明した後に質疑応答。
0:00:57	そのあと、一旦振り返りを行いまして、
0:01:01	その後、区切って、他アクセス、
0:01:05	露点等関係の、
0:01:07	コメント回答。
0:01:09	の説明を行い、そのあと質疑応答そのあと振り返りを、
0:01:14	行いたいと考えてございます。そのような進め方でよろしいでしょうか。はい、規制庁チギラニズはいさん集め方でお願いします。
0:01:26	はい中国電力の伊原です。それでは資料の方の裁判をしたいと思いませんよろしくをお願いします。
0:01:32	まず紙資料合計 10 冊ありましてまず資料番号でN-S2-穂風 아이폰 086 回、20、
0:01:41	ナンバー1 とします。
0:01:43	続きましてN-SAをナンバー1 とします。A-添 1-026 回 06 を、資料番号 2 番とします。次ニズ 2-を、
0:01:55	5-020 回 38、資料番号 3 とします。以上が発生する関係です。続きまして地下水位低下設備の耐震の基本方針関係で資料番号がN-Sに、
0:02:07	配布の方から 02802 を、資料番号 4 番とします。
0:02:12	続きましてN-S2- 2001-15 回 02 を、資料番号 5 番とします。
0:02:22	続きましてN-S2-方 023-11 回 02 を注番号 6 番といたします。
0:02:30	最後に耐震計算書に河成か設備なんです、資料番号N-Sにほか、
0:02:37	318 を週番号 7 番とします。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:02:41	続きましてN-Sに他県に019--02開示を資料番号8番とします。
0:02:48	続きましてN-Sにi分点に-019-07回01を、資料番号09とします。
0:02:57	最後に注番号N-Sに、
0:03:00	-を-023、A--12階02を、資料番号10番とします。
0:03:08	資料の方は全部おそろいでしょうか。
0:03:12	はい。資料の方確認できましたので、説明の方お願いいたします。
0:03:18	はい中国電力伊原です。それではまずう地下水位低下設備の設計方針の方のコメント回答をご覧のゲンシたいと思います。
0:03:28	資料につきましては、清資料番号4番。
0:03:33	5番と6番ですね、の方を使わせていただきます。
0:03:38	まず資料番号4番の回答整理表になりまして説明につき、この回答につきまして資料番号6番の地下水位低下設備の設計方針の補足説明資料の方で説明したいと考えております。
0:03:52	それではまず資料番、回答整理表ですね資料番号4番のページで言いますと、2ページをご覧ください。
0:04:01	はい2ページですね一番最後のコメントで資料、コメントNo.22番。
0:04:07	はい。の方のコメント回答から入ります。
0:04:10	コメント内容につきましては読み上げません不整合心の範囲の排水について、屋外排水の逆止弁の通水性及び、
0:04:19	そいつ水等を考慮した通水性について説明することといった、コメントいただきました。
0:04:25	資料番号6番の補足説明資料のページで言いますと20、通し番号で29ページを、
0:04:33	お願いします。
0:04:39	はい。29ページの方で(5)ということで屋外排水の逆止弁の開機能の確認ということで、その前のページまでが前回ヒアリングで、状況で言いますと岡安井戸が地下水を排水道路の側溝部分が、
0:04:56	追われて地表面に地下水が増えた場合に敷地側の集水桝から出口側に進みますので、例えば出口側の方の施設護岸の排水量が、
0:05:07	地震時に閉塞したということを想定してMN状態で不正防止の時期で損失の方を説明しました。
0:05:13	29ページの方で数、確認しましたのが、逆止弁後本当に開くかどうかというところで確認をさせていただきます。
0:05:23	まず49ページの(5)のですね確認、①確認方法としましては、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:05:29	逆止弁に作用するですね、敷地側の上流側からの全水圧が逆止弁の自重を上回ることを確認しました。
0:05:39	中ほどの図 3-5、水圧作用イメージをご覧ください。
0:05:44	まず計算の条件として逆止弁が真ん中にありますが左側の赤い部分が、要は敷地側からの水圧が逆止弁にかかるイメージを想定し、
0:05:57	イメージを示してます。左側の右側の青い水圧のイメージ図が、
0:06:04	Mn状態で右側、右側にですね、既設排水を閉塞してあるんですが減った状態で、
0:06:11	この逆止弁の弁の上部から溢れ出すということを想定しまして、計算条件としましては溢れた高さプラス 10 センチの水深を考慮して、
0:06:22	右側から前、水圧を逆止弁を押すというような状況を想定して、
0:06:31	前水圧の計算をしました。③番で確認結果ですが敷地側の全施設のP湾とロスピーチの結果が、
0:06:42	日がすみませんP&BIIの差がですね 27.4kNありまして、今衛藤が逆止弁の自重が
0:06:52	17.7 キロ、2トンありますので全水圧が敷地側から全水圧で逆止弁が開くところを確認しました。
0:07:01	コメント 22 番の回答は以上になります。
0:07:05	はい。それでは吉良です。それでは、今の説明に対して確認する点がある方お願いします。
0:07:14	あ、すみません規制庁タダウチですこれ、今の 20、資料を、
0:07:21	ね、⑥の、
0:07:23	29 ページの評価なんですけれども、これ単純にこの
0:07:29	ゲート能自重等、それとゲートの外側内側の、何だろう。
0:07:41	圧力さあと面積掛けたものとの比較だけでね。
0:07:48	やっちゃってるんだけれども、これはこれでいいんですかねや、何を言いたいのかっていうと、
0:07:54	この評価って、例えばね 1 回横の要は
0:07:59	水平方向の力学的評価だけやっているって話にはなるんだけれども、本来なら、フラップゲートなんで、
0:08:08	今のやってる評価だと、打ち勝ちます動きます終わりみたいな話だけど本来だったら上品についてフラップゲートついてるんでね閉じる方向の実は-1 から、
0:08:19	自体が閉まる方向の力も本来作用してるはずなんですね、開くと。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:08:25	そういったものの考慮っていうのはなされているのかどうか、しいては何か例えばね、比フラップゲートの額自体の開度がものすごく、
0:08:36	微小だから、ほぼこれに、
0:08:39	近似できますよとかそんなような、工学的判断があつてこれをやっているのか、そこら辺をちょっと説明いただけないですかね単純にこれだけを見ると、
0:08:49	ちょっと構造を反映したような表カーの内容にはなっていないんじゃないかなと思うんですけども。
0:08:56	そこら辺の考え方を教えてください。
0:09:01	はい中国電力の伊原です。これを確認した考え方につきましては逆止弁は、通常運用でもオク排水を日、
0:09:11	行った時に五味側に流すような構造ですので、
0:09:15	今回確認しましたのは、逆止弁の自重をきちっと考慮しまして、水圧されてですねきちんと青ハッチみたい右側から、
0:09:26	逆止弁落ち返すような水圧も考慮した上で、水圧さんによって、水圧佐賀赤川の方がですね敷地側の方が、
0:09:34	辨野野尻百田ってことでもうこ単純なんですけど確実にこれが逆止弁が海側の方向に開くっていうのは、これで証明できると我々考えてます。
0:09:47	以上です。
0:09:49	規制庁多田です。そうすると、あんまり、フラップゲートとしての構造を考慮して何か考えてますかっていう、すいません先ほど私の質問には、特に、
0:10:03	回答されてないということでもいいんですかね。
0:10:18	九州電力の伊田ですはい次、
0:10:21	逆止弁の構造からいうと、今の断面でお示したところの上がですね固定日に固定されてましてそこから
0:10:30	バタバタと開くような機構ですので、それも構造も踏まえて、
0:10:36	説明してるつもりなんですけど少しなんかどういうふうに開くかっていうところの、
0:10:43	弁の動き方っていうんですかねそういったところをイメージを付け加える形でいかがでしょうか。
0:10:49	規制庁多田です。それでも構わないんですけども、さっき言ったように、弁があつて、弁ツガネ逆止弁としてのね、前の開き方の状態が、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:11:00	このような状態でみなせるから、そういった話、こういった話に帰着できるんですかねなんていう話もちよっと私の方からは、言ったんですけども、そこら辺も、
0:11:10	ちよっと考慮してですねもうちよっと、こういった考え方でこの評価でいいんですっていうのをちよっと充実してもらえないですかね。
0:11:29	はい。中国電力ヨシツグでございます。
0:11:31	はい。今伊原が申しました通りフラップゲートの構造としての状態が、ピン構造になって、
0:11:38	少しの開度でもこう開くような、構造のフラップゲートとなっております。
0:11:43	ですので、単純にこの今の水圧差と、
0:11:49	フラップゲートの自重が回動的に開く方向ということでその自重分を見ているということがちよっと今、もう少しこの辺の文章をですね追記をさせていただきます、
0:11:59	イメージが伝わりやすいような表現で見直しをさせていただきたいと思います。以上です。
0:12:04	はい。規制庁タダウチです。ちなみに、前も聞いたかもしんないんですけどこのヒンジ部分ってもしかして変身してるような形で水辺に何かずれるとかそんな構造になったりもしてるんですか。
0:12:18	上下ウヤです水平の移動はできないような構造なってます。
0:12:22	以上です。
0:12:24	はい、規制庁タダウチさんはその部分についてはもう少し考察を加えた形での記載をお願いしますそれともう一つなんですけれども、
0:12:34	これちなみにあれですかねフラップゲートの開度ってどれくらいかかっていうのはちよっと、どう、何か評価してみたりとかやってます。
0:12:50	中部電力の江田です。そうですね開度対流量って言ったら、少なく実際現象としてはちよっと言ったら流れるんですけども、今回の地下水の流量がコンマ
0:13:00	04 時間コンマ 12 立米ですので、
0:13:03	それに、そうした
0:13:05	回路になる。
0:13:07	と思います。はい。チェックまではしません。
0:13:11	以上です。規制庁多田ですそれでねさっき言ったように返信した形で額が何か、要はずれてね、それで開きますみたいな構造になってない以上、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:13:23	隙間が開くのがあくまでもゲートが斜めに開きながら赤いドアアップしていき くってというような話になると、最終的に、
0:13:34	定常流としてねさっき言ったコンマ 12 立米が、この隙間を流れていって ってところがあるんですけども、
0:13:41	これ数値重量がねここに書いてある 2800 キロ 1.8 トンぐらいあって流量 がね、このぐらいですよ。御社の計算だと、
0:13:53	スイトウさあ、0.9 メートルぐらいで流れてくんですって話になると、これ ーゲート自体がかなり開く。
0:14:03	わけじゃなくて本当に、
0:14:05	もう微々たるもんな開きぐらいで流れていくって話になると、この間すり 抜けていくね、流体のスピードとかねそこら辺考えてこれって工学的に 成り立つのかどうかってところの、
0:14:18	考察はなされているのかなってところが、ちょっとね、気になってる んですけどもそういったところまでやってるんですかそれとも定量的なこ とはやってないんだけど、何か定性的にこんなもんで十分ななんて 話やってたりします。
0:14:31	念のための確認ですけど。
0:14:34	はい中国電力の伊原です。衛藤今回確認した水圧式では、黒須伊佐で ですね上下流で 70 センチで、
0:14:43	中で隠してるんですけどもこの同じやり方ですと通常でもですね、上 流側の水路が 50 センチ未満ぐらいでは、
0:14:51	躯体の 1.8、1.8tの弁よりも重くなって水圧がかかって開くっていうよう な、
0:14:59	確認はしてます。
0:15:04	はい。以上です。
0:15:10	はい。規制庁タダウチです実際問題としてはやってないってことなん ですけどもゲート自体が開いて流出していくってところまでの評価は 一応
0:15:22	定性的に、そういうふうに流れていくんだなってところまではどうやら やってるってことは理解しました。はい。
0:15:30	私の方からの質問院長で先ほどのところの記載の事実だけお願いしま す。
0:15:36	はいわかりました記載の時は追記等をして、資料確認いたします。は い。以上です。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:16:05	それでは、進めてよろしいでしょうか。中国電力シミズちょっと待ってくださいこちらで話します。
0:19:53	はい、規制庁木村です。すいません渡しました。それでは次のコメント回答の方をお願いいたします。
0:20:03	はい。中国電力の長田です。それでは4番の資料で、コメントナンバーの、と関連するところとしまして8番と20番。
0:20:13	ご回答させていただきます。
0:20:15	まず8番ですが、
0:20:17	コメントの方は地下水位低下設備の設計方針で仮設法数、
0:20:23	接続方法出口側の構造について説明すること。
0:20:27	ということで、前回1回説明させていただいておりますが今回
0:20:31	接続法とか構造の方を追加しております。それから、20、コメントナンバーの20番が、
0:20:40	仮設ホースの、明日、圧力損失を考慮しても排水可能であることを説明することということで、こちらも前回発想をきちんと考慮しまして設計をしますと。
0:20:52	いうご説明をさせていただきましたが今回具体的に計算の値を変えて参りましたのでご説明させていただきます。
0:21:00	資料6番をお願いいたします。
0:21:06	はい。資料6番の通しで45ページをお願いいたします。
0:21:13	こちらに参考資料3ということで仮設ホースの接続についてということで、はい。もともと
0:21:21	屋外水路等が地震等で損傷した場合に地表面を流れる、そのあとに構図で、復旧しますと、安全のため復旧しますというところの説明です。
0:21:33	このページの図1ですけれども、はい手順と地下水位低下設備の構造は前回示しておりましたが、その右上にですね
0:21:45	ポンプの上部のフランジに仮設ホースの取り付け治具をつけまして、ここで
0:21:53	分水器等はございますけれども、はい敷地に敷設するホースの口径をある程度、
0:22:01	ちょっとあんまり大きくならなくするすすしよと思ひまして分析の方で、二つに分けたような構造を考えています。
0:22:09	こちらの結合科学とありますけれどもこちらの、はい。エッセー対応とかでも使うような説明をしておりますけども手動でちょっと取りつけれるような、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:22:21	そういうような構造の
0:22:24	配接続部を考えています。
0:22:26	続きまして 46 ページお願いいたします。
0:22:31	はい。
0:22:32	今図 2 にですけれども、こちら今の二つ、オレンジと緑のホースルート のラインを今ちよつと検討しておりますが、
0:22:41	はいこちらで、
0:22:44	オレンジのホースルート 2 の方が 200 メーターということで、緑の 150 メ ートルナガイですので、3 ポツの方で、発送の計算をしております。
0:22:55	こちらもはい SA 設備とかホースいろいろ使っておりますけどもそちらと 同じような形で記載をいたしました。
0:23:04	はい。それぞれ本数、もともとの①が
0:23:10	井戸からくみ上げるものですがけれども、その差、②は、井戸の中の配管 弁類、①②が
0:23:17	井戸関係ですその先の③からが先ほどの分岐管からの発想になりまし て、はいこちらを全部足し合わせましても、33.42 メーターで、
0:23:29	揚水ポンプの予定はもともと 35 メーター以上確保するという設計にして おりますので、はい排水可能だと、いうことを確認いたしました。
0:23:38	説明は以上になります。
0:23:41	はい。規制庁チギラです。それでは今の説明に対して確認する点があ る方。
0:23:47	いかがですか。
0:23:48	はい。回答の内容で結構ですので、こちらのコメントについては了とい たします。
0:23:56	それでは次の、はい。コメント回答をお願いいたします。
0:24:01	はい自国電力の伊原ですそれではコメントはイトウ生理用、4 番のすい ません、コメント番号 11 番です。
0:24:11	はいコメント内容が、地下水が地表地表皆振れた場合、地表面からの 浸透を考慮しても地下水に影響がないことを説明することということで、
0:24:21	資料番号 6 番の、ページ番号の 44 ページをご覧ください。
0:24:27	はい。44 ページの方に前回もご説明しましたが少し記載の内容だとか です図面とかわかりづらかったので具体的に地下水が地中に浸透す る現象を追記を黄色でしてございます。
0:24:41	まずは図、一番下ですね図 3-6 の流れのイメージなんですが、特に赤 字で番号を振りましてまず①番で、地表面付近で、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:24:53	側溝の損壊部 2 丁目ガチガチ地下水が中面に溢れた後に、下の②番で、地下水の一部が不飽和状態の埋め戻して岩盤に浸透していきまして、
0:25:04	下に行きましたらドレンや、揚水ポンプがSs機能維持ですので地上に配置されるっていうような、
0:25:11	イメージにしまして、中ほどにですね黄色書きで説明を追記してます。
0:25:17	この内容につきまして、簡単に見えますが新統一部に地下水の一部が地下に浸透した場合、地下水は地表面水位前の飽和状態の埋戻してまた岩盤に浸透していき、
0:25:31	地下水面のめど指導または岩盤が飽和状態になった後に、あと、地下水の上昇に至ることが想定されるが、しかしながら、
0:25:40	地下水位低下設備Ss機能維持の設計でありまして地震部においても、排水機能を有しておりまして、揚水ポンプで地下水をくみ上げ続けている状態であるというところで地下水が地表面が浸透しても、設計地下水位には、
0:25:54	影響ないっていうような記載に変えております。コメント 11 番の回答は以上になります。
0:26:02	はい、規制庁チギラ列、今の説明に対して確認する点がある方いらっしゃいますか。
0:26:08	はい。よろしいですね。はい。それでは今の回答については療育をいただきます。
0:26:15	それでは次の説明をお願いします。
0:26:17	はい、おはようございます。井川です。それでは回答整理表の 2 ページ目をご覧ください。
0:26:23	コメント番号の 13 と 14 関連しますのでまとめて答え、ご回答いたします。
0:26:29	まずコメント 13 につきましてはコメント内容を読み上げますが、地下水が地表面に溢れた場合のアクセスルートへの影響について具体的に記載すること。
0:26:38	コメントの 14 が、屋外タンク等のインス溢水と、
0:26:43	屋外排水からの地下水が同時に溢れた場合の影響を定量的に説明することと、ちょうだいいたしまして回答なんですが、資料番号 6 番の
0:26:53	ページで言いますと、
0:26:56	35 ページをお願いします。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:27:06	はい 35 ページの方に地下水、この図の 3-2 なんですが地下水の溢水による浸水想定範囲、
0:27:15	これはですね前回ご説明した内容からですねまず変えたところが、ちょっとご指摘をいただきましたので、この青ハッチ部分の地下水が溢れ出る想定範囲を、
0:27:28	井戸を中心にを引っ張りまして 8.5 円版の左のところに広がり続けるっというような、範囲を広げました。また用水道が中ほどにあります、新設のですね、
0:27:40	その南側にですね安全対策工事の掘削箇所がありまして、
0:27:44	実際再稼働時には揚水井戸から溢れた場合付近から溢れた場合には、
0:27:50	掘削箇所に地下水が流入するということでこの情報も付け加えた上で、営業確認をさせていただきます。
0:27:57	36 ページ。
0:28:00	を集めまして 37 ページをお願いします。
0:28:04	まず溢水の影響確認なんですがまず 37 ページの図の 3-3 です。上の方に溢水浸水想定範囲の浸水、すいません。
0:28:16	溢水範囲で、
0:28:17	今回青ハッチ部分で溢水影響範囲を広げましたので評価地点を 2 点つい追加してます。まず
0:28:28	図、上の図面の緑の額の
0:28:31	北側っというか上の方が取水槽なんですがその東側の地点 9 ですね、それと下の、
0:28:37	原子炉建物の緑枠囲まれた溢水防護区画の中の比嘉、西側で H. 3 というところの映画を付け加えて、水の影響評価、確認しております。
0:28:50	ページ戻りまして 36 ページ。
0:28:53	です。その影響確認の結果なんですが、36 ページのところの 2 パラ目。
0:29:00	の 3 行目からですねまず時点追加 7.3 の説明ですけども、
0:29:06	ここにつきましては地下水は地下水は到達しないと。
0:29:15	地下水が到達しないと。
0:29:18	いうところで
0:29:20	それを規制、地下水位まで通したいという確認しております。言います。
0:29:25	続きまして、地点、その他ですね 7.44 と 1.8。
0:29:31	については

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:29:34	えっとですね、地下水の溢水と、8月のフルタて止水等の溢水を足し合わせた場合に、
0:29:41	あまり裕度がなかったところなんですけども、けどもそれはそれに対して黄色ハッチングしてありますが、仮に超えたとしてもまず1.4については溢水評価が必要となる設備がないということと、1.8につきましては、
0:29:56	海水取水増加水ポンプエリア防護対策設備防水を設置するため影響はないと。
0:30:02	説明しを付け加えました。
0:30:04	最後にA地点9の方ですね、今回追加された地点9につきましては、取水率を変え、
0:30:11	本エリアの非ヒガシ面なんですけども、
0:30:14	ここにつきましてもB8の通り水槽回分水ポンプエリア防護対策設備大津駅、
0:30:20	をすることによって防護できるという説明にさせていただきます。
0:30:24	めくっていただきまして、
0:30:28	40ページ、
0:30:30	はいをご覧ください。
0:30:32	40ページの方に総括的な表ということでこの溢水の評価地点と、その結果というのを先ほどご説明した通りのものを非まとめまして情報追加させていただきます。
0:30:45	コメント14と13のすみません、ちょっと続きましてコメント13の回答。
0:30:52	をします。41ページをお願いします。
0:30:56	41ページからはアクセスルートの通行性への影響についてということで
0:31:01	確認をさせていただきます。めくってページの方がですね、めくって43ページをお願いします。
0:31:08	43ページの方にこの伊勢地下水の溢水想定範囲とアクセスルートとの関連を、
0:31:16	表した図面の中でこの赤丸の方が評価地点でこの評価地点の下のグラフなんですけれども、浸水時刻歴をし、示してございます。
0:31:26	時刻歴を見てみますと、大体15分、自社事象が発生して15分ほどなったらピークで20センチぐらいの通信になるんですが、
0:31:35	30分以降にはだんだん水位が下がってくるという時、
0:31:39	ことになってます。
0:31:42	答えなんですけども4ページ戻ってみまして42ページ。
0:31:46	はい。お願いします。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:31:48	42 ページの方では前回説明と同様にですね最大浸水深 20 センチなんて地下水 7000 以上立ち上げ合わせた場合には一時的に超えるんですけども、
0:31:58	一番下、
0:32:00	上の 1 パラ目の 1 の 2 行目なんですけども、事故対応時には、
0:32:05	町加瀬SE低下後に、可搬型SA設備が通行するため影響はないということで注記としまして情報を使って付け加えております。
0:32:15	読み上げますが川手節設備の当該エリアの通行は緊対所オキタ起点として要員のところで第 4 回エリアに移動後の通行を想定しており、
0:32:26	車両に通行するのは約 45 分後、
0:32:29	ですので図に示す浸水時刻歴より、水位は 8 センチで、
0:32:34	地下水足し合わせても 15 センチなので川辺設備のアクセス可能な水位、浸水深 22 センチ以下であるということ、注記で付け加えました。
0:32:43	コメント 13 と 14 の回答は以上になります。
0:32:49	はい。規制庁の千明です。それでは、今の回答がありました、コメントNo. 13 と 14 に対して確認をしていきたいと思いますが、まず、コメントのナンバー13、
0:33:01	ですが、今、⑥の資料の 42 ページで、今回、追記していただいた内容は、わかりましたと。
0:33:12	それで、ここでは 1 の推進を見るとアクセス性に影響がないということが書かれているんですけど、これに加えてですね、
0:33:23	また後ろの参考資料の 3 とか 4 ですね、
0:33:30	そして仮設ホースを接続したりとかですねコガ伊豆の自主的な対策っていうのがあると思うんですけど、それで速やかに市ミツイ
0:33:40	を配置してですね、
0:33:42	ドライに近い状態に持っていけるという、そういった運用も準備されていると思いますので、その辺とちょっと関連づけた方が、
0:33:53	いいかなと思うんですけどそれは、関連づけることは可能ですか。
0:34:02	中国電力の長田です。まず仮設ホースのお話でしたが仮設、一応地下水位低下設備としては、
0:34:13	地表面に溢れ出ても、
0:34:16	中集水枡に流れ込みますので排水は可能で説明をさせていただいてそれを、
0:34:24	なるべくずっと垂れ流しといいますかしないように、仮設ホースの運用を追加で念のためやろうということで、準備を考えています。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:34:35	接続部等のご説明をさせていただきましたけれども、井戸の蓋を開けたリフランジを接続したりホースを敷設するということがありますので、
0:34:46	そこに時間を
0:34:48	半日とかそれぐらいはかかる方数はかかると思いますのでちょっとこのアクセスのところとのリンクは、ちょっと切り分けて考えたいと思っています。以上です。
0:35:04	はい。
0:35:06	そうすると今のこの時間的な軸がちょっとずれているっていう理解でいいですかね。
0:35:13	損保じる4の方は、こちらはあんまり関連づかないですかね。
0:35:26	3、上部電力あれ参考資料4は、既設のVS側溝に仮カトウ管を入れて、なるべくその側溝が壊れたときに広めに行かないような自主的な対策ということで、
0:35:40	考えてますので直接的な関連はないないとは今考えております。
0:35:49	はい。
0:35:50	関連図とすると参考資料3、3のこの鉄棒図の方が、関連、
0:35:59	可能性としてはあるんですけど、ちょっと時間軸の関係っていうところで、今切り分けているっていうことなんですけど、
0:36:09	はい。そういったことでわかりましたが、
0:36:15	ちょっと関連。
0:36:18	できるかどうかっていうのは、もう全くあれですかね検討の余地もないっていう。
0:36:24	理解で大丈夫ですかね。何か。
0:36:28	考えられそうですか。
0:36:40	はい。中国電力ヨシツグちょっとお待ちくださいませ。
0:37:09	規制庁チギラです。すいません大変時間のズレは多少あるんですけどそういったところも一応運用としては、あるっていうような、
0:37:20	そんな形で関連づけることは可能ですかね。
0:37:28	はい。中国電力ヨシツグでございます。はい。今おっしゃられた通り、ちょっと時間軸も意識しながらその文章に追記をさせていただきたいと思いますが参考資料4につきましても、
0:37:39	あわせて地域の方でちょっと検討させていただきます。以上です。はい。すいませんがよろしくお願いします。
0:37:54	規制庁の服部です。
0:37:57	コメントNo.14については、基本的には承知をいたしました。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:38:02	何点か確認だけさせていただきます。資料番号 6 の、
0:38:08	36 ページをお願いします。
0:38:12	ここの真ん中辺にある地点 4、
0:38:15	について確認します。
0:38:18	瀬戸地点 4 の記載の中の二つ目の黄色いところで、
0:38:23	タービン建物には、溢水評価が必要となる設備がなくって書いてるんですけど、
0:38:30	これ前も聞いたかもしれないんですけども、
0:38:33	この地点 4、
0:38:35	のあるところというのは、ちょうどタービン建物の西側のSクラスエリアがあるところだというふうに認識しています。
0:38:44	この、
0:38:46	溢水評価が必要となる設備がないというのは、
0:38:51	そもそもSクラスの設備がないと言ってるのか。
0:38:55	それともう、
0:38:57	H. 4 のOA開口から流入した水が、
0:39:03	そのSクラスのある地下階まで届かないと言っているのか。
0:39:07	もしくは届いたとしても、静的機器なので、
0:39:12	溢水による影響がないという意味なのか。
0:39:17	この溢水評価が必要となる設備がなく、と言ってる意味を説明してくださいどうぞ。
0:39:25	はい。中国電力の長田です。背弧前回コメントいただきまして確か防護するべき設備とかいろいろ記載をしましたけど、ご指摘いただいて修正した部分になります。
0:39:37	まずSクラスという観点で言いますと、津波の関係の言葉になってしまいますので、津波防護対象施設とかそういう、
0:39:49	はい。ことになりますので、お答えとしましては、ここはそんなに入る、超えていないので入らないですけどもし超えたとしても、
0:40:00	というところですので、
0:40:03	濡れて、
0:40:06	駄目になるような機器がないという意味合いで書いております。ですので津波とかそういうワードではなくて溢水評価ということで、濡れては、上でNGになる機器がないと、そういう
0:40:19	記載にしております。以上です。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:40:21	規制庁の服部ですあくまでも、溢水評価上は、営業のある設備がないということでこういう記載になってるということで承知をいたしました。
0:40:33	あともう1点なんですけど、
0:40:36	これもまた津波の話。
0:40:39	津波というか、屋外タンクの溢水の話になると思うんですけど、
0:40:45	そのあとの、
0:40:46	このタービン建物の容積を考慮すると、影響はないという記載なんですけど。
0:40:53	これもう、前、津波の方
0:40:58	確か、5リ्यूベ5立米ぐらい浸水する可能性があって、
0:41:04	浸水したとしても、その浸水高さは数ミリ程度ですよというような説明があったんですけど、
0:41:13	その話とリンクしてますか。
0:41:17	はい。中国電力の長田です。先にお答え申し上げますとリンクしております。
0:41:23	津波、水この地下水の溢れ出るの考えていない屋外タンク水でのご説明は、今後、
0:41:32	37ページの地点5のところから、ここはわずかに扉の方よりも、屋外タンク水の水位が超えましたので、そこで、
0:41:44	越流の評価とかをしまして、
0:41:48	5立米程度そういう計算をしています。タービン他、
0:41:53	濡れてはいけないものがあるのは李原子炉建物になりますので、地点5であっても1.4であっても、8点は超えてませんが仮に超えたとしても、わずか
0:42:05	ですし原子炉建物の方に行くことはないということでこのような記載をさせていただいてます以上です。
0:42:13	規制庁の服部ですわかりました。今話してたのは地点5の話なんですね。
0:42:19	そうすると、この地点4の話の中に、
0:42:23	例えばその話を、
0:42:27	にリンクするような紐付けをする等おかしな話になりそうですかね。それとも、
0:42:34	そういう紐付けをリンクしてそっちに行くと。
0:42:40	問題ないよっていうことが、定量的にわかるようになるのかな、ちょっとそこら辺、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:42:45	考えを教えてください。説明してくださいどうぞ。
0:42:49	はい中国電力の長田です。
0:42:52	はい。まず、1.5 は、すでに水位が扉型を超えてますので定量評価ができます。ただその先の評価は、
0:43:02	ここに記載したようにですねタービン建物の容積が、
0:43:09	明らかに大きいので、しかもこの地点 4 については、実際は数字的には超えていないということですので、はい。
0:43:19	評価の内容としては 1.5 のところで、下展開と同じようなロジックでご説明をさせていただいているという認識しております。以上です。
0:43:31	規制庁のハットリですはいわかりました
0:43:34	要は、ロジックは一緒なんだけども、例えばここに、この最後に括弧して、
0:43:40	何々の資料参照ってやると、それは少し違うっていうことでよろしいです。違うということなのか。
0:43:47	それともこの後に括弧して何々参照みたいな形でそっちへ飛ばすようなことをしても、
0:43:55	書類、資料上はおかしくないのか、どちらなのでしょう。
0:44:01	はい中国電力の永田です。
0:44:04	碓井の方でやっておりますが先ほど申し上げましたように、37 ページ 1.5 で、今回とちょっと違うところですので、ちょっと直接的なリンクはちょっと逆に、何か
0:44:15	混乱を招くかなというかははい。ちょっとそこまでは
0:44:19	考えておりません。以上です。
0:44:21	規制庁のハットリですはいわかりました。事実として確認しました。私からですのでヒアリングコメント 13 番については了としたいと思います。あ、ごめんなさい。どちら。
0:44:34	14 番ですね、ヒアリングコメント 14 番については了としたいと思います私からは以上です。
0:44:47	はい。規制庁チギラです。それでは、次の説明をお願いいたします。
0:44:54	はい中国電力の伊原ですそれでは設計方針最後のコメントとなりましてごめん、回答整理用の 2 ページのコメントの 17 番です。
0:45:04	コメント内容が、地下水流入量の算定において再現解析と最大実績との比較を行うとともに、予測解析における流量の保守性を説明することといたしまして
0:45:16	資料の方が、資料 6 番のページが 7 ページになります。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:45:24	はい。7 ページの方で 2 ポツ 2 で再現解析の解析上の妥当性確認というところの説明のところになります。黄色ハッチングしてございますが、今回ご指摘いただきまして②番ということで既設の
0:45:38	揚水ポンプの日最大の実績排水量を観測した日の、
0:45:42	降水量 1 日 54.5 ミリのケースを考慮して、
0:45:49	再現解析モデルで計算しました。
0:45:52	10、1008 ページをお願いします 8 ページはモデルの概要大きいハッチなりしてございますが、今回変えたところは中ほどの気象条件の②番の降雨量のみを変えてございます。
0:46:04	それで結果なんです、10 ページをお願いします。
0:46:08	はい。
0:46:08	10 ページの方で評価結果ということで表の下ですね、表の 2-4-(2) で解析流量の方が再現、7519 立米。
0:46:20	と出まして実績排水量の方を上回ることを確認したところを
0:46:26	記載をしてございます。合わせましてちょっとすいません、資料の修正をいたします 13 ページをお願いします。
0:46:34	13 ページの方で、これ予測解析の評価結果の方の説明する文章なんです、ここに前回の時にですね 1 表のですね一番下です。実績排水量の結果を
0:46:47	入れまして上の方の説明で比較した結果予測解析で上回ったという説明はちょっとこの辺はですね、基本的に
0:46:55	考慮している考慮してる条件等が違いますんで比較の対象となりませんのでここは削除したいと思います。申し訳ございませんでした。はい。以上でコメントの回答を終わります。
0:47:09	はい。規制庁、日浦ですが、それでは今の説明に対して確認する点があるかと。
0:47:17	規制庁の三浦です。
0:47:20	指摘に対して答えていただいて 10 ページよくわかりました。
0:47:24	先ほどちょっと言われた 13 ページの話というのは、
0:47:29	予測解析と実績排水量っていうのを比較するものではないので、
0:47:34	最後の上から 2C 牢屋 8 行目ぐらいの
0:47:39	この 2 行を削るということなんでしょうか。
0:47:43	衛藤市折原です削る文章はですね、上の文章のまた以降、
0:47:49	ですね、のところ、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:47:51	この 2 パターン目を消して、3 番目は予測解析の解析条件地下水流入の算出結果を表 2-6 に示すことで基本的に、日最大の実績配水量の、
0:48:03	部分の、
0:48:05	説明を消したいと考えてます。だからここで言っている、あれなんですよ。実績排水量を、
0:48:12	これを参考程度ってことですよね単に参考で表の中に入れたっていうだけでですよ。
0:48:20	はい、そうですね参考 3、ちなみに参考 2 とで、はい。その 10 ページのところ再現解析で上回ることを、
0:48:32	再現解析の粒度が大きいことが確認されているので、予測解析がもっと保守的になっているので、
0:48:39	ここでは直接比較するものではなくてあくまでも参考としてこの表の中に入れましたっていうことで、
0:48:46	12 ページ 13 ページはその 2 パラ目 2、2 パラの文章。
0:48:52	これを上回ってることを確認したってのはあまり意味がないのでその文章を削るっていいですか。
0:48:58	はい、その通りでございます。
0:49:02	実績 3 が排水量のところ参考とかを入れたり、2%を削ったりして、単に比較しただけだっということを確認にわかるようにしといてください。はい、それで結構です。
0:49:14	はい、了解しました。
0:49:17	はい。規制庁チギラですが、それでは次の説明をお願いします。はい。
0:49:28	はい。中国電力の早田です。それでは、
0:49:32	地下水位低下設備の耐震計算保証の方のご説明をしたいと思います。
0:49:38	資料番号の 7 番の回答整理表をお願いいたします。
0:49:48	資料番号 7 番の 1 ページ目の、
0:49:52	に、コメントを記載しております。全部で 5 件ございまして、今回は、
0:49:57	ナンバー 4 と No. 5 の 2 件回答したいと思います。
0:50:00	まず、ナンバー 4 のコメントが、
0:50:03	12 月 23 日のヒアリングでいただいたコメントになります。
0:50:07	用水道について底盤から側壁に回り込む曲げモーメントの算定プロセスを説明すること。
0:50:15	こちらにつきまして資料番号 10 番。
0:50:18	201 ページでご説明したいと思います。201 ページ、お願いいたします。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:50:30	はい。201 ページに、側壁と底盤の結合部における局所の曲げモーメント増分の回り込みを考慮した耐震評価結果をお示しております。
0:50:41	前回は、側壁上端を固定条件としておりましたが、井戸のちやう開口であることから、黄色ハッチングで記載しております通り、側壁上端位置をピン支持条件とし、
0:50:53	側壁下端位置を固定条件としたはりモデルに、地盤反力を作用させ、
0:50:59	底盤は、前回同様に両端を固定条件とした。
0:51:03	はりモデルに地盤反力を作用させた際の、
0:51:06	させております。
0:51:09	202 ページから 205 ページ。
0:51:12	に、結果の図をお示しております。
0:51:16	206 ページをお願いします。
0:51:25	206 ページの表に、評価結果をお示しております。
0:51:29	二次元全応力解析による曲げモーメントを $\sqrt{2}$ 倍したものを、
0:51:34	σ_v ワン'。
0:51:36	202 ページから 205 ページにお示しておりました結果を足し合わせた拘束効果による曲げを $\Sigma V II$ としてお示しております。
0:51:46	前回は底盤に発生した曲げモーメントを一度側壁の方に与えて、方のよさは底盤のある剛域と考え、
0:51:55	それよりも上の要素の発生もげモーメントを採用しておりましたが、今回は保守的に底盤の発生曲げモーメントを単純に足し合わせを行いました。
0:52:06	結果としては、小説最大が 0.83 となりました。
0:52:10	以上がNo. 4 のコメント回答になります。
0:52:16	はい、規制庁チギラです。それでは今の説明に対して確認する点があるかと。
0:52:21	はい。今の回答内容で結構ですのでこの回答については了といたします。
0:52:28	それでは次の説明をお願いいたします。
0:52:31	はい。ありがとうございます。続きまして資料番号 7 番の回答整理表。
0:52:37	ナンバー5 のコメントについてです。
0:52:40	こちらが昨年 3 月 11 日、
0:52:44	に、耐震評価対象の網羅性、
0:52:47	既設工認との手法の相違点の整理についてから、コメントを移動したものにになります。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:52:55	地下水位低下設備の揚水井戸の評価について、解析手法の考え方を説明すること。
0:53:01	説明箇所の内容は前回ヒアリングから、変更はございませんが、今回の資料番号 10 の資料でご説明させていただきます。
0:53:13	こちらで回答整理表のページ番号に誤りがございまして、
0:53:18	こちら、ページが 18 と通し番号が 23 となっておりますが、
0:53:23	正しくは 16 ページと通し番号が 21 番になります。
0:53:28	それでは、資料 10 の 21 ページをお願いいたします。
0:53:39	21 ページの 2 パラ目ですが、揚水井戸の施設周辺の地下水位は底盤より高いが、揚水井戸周辺に地下水以深の液状化対象層が存在しないため、
0:53:50	全応力解析を選定いたします。
0:53:54	こちら前回から内容に変更はございませんが、こちらの記載をもって、No.5 のコメント回答とさせていただきたいと思えます。No.5 のコメント回答は以上になります。
0:54:05	回答させていただきたいと思えます。はい。規制庁、平です。はい。今のナンバー3 については、回答内容についてはこれで結構ですのでといたします。
0:54:21	それでは、次の説明をお願いいたします。
0:54:30	地下水関係は以上になりますので
0:54:34	はい、わかりましたじゃ人の入れ替えがあるということで、一旦ここで録音を停止いたします。
0:54:49	すいません、ちょっと
0:54:51	地下水の方ですね追加で確認する点がありますので、ちょっとそちらを先にやらせてください。
0:55:02	規制庁の三浦です。ちょっと資料見てて気が付いたところ言います資料の 6 番、
0:55:11	27 ページ
0:55:16	そこに損失水等の計算モデルって出てて、
0:55:20	でき後陸が書かれたところの下に $Q=0.12$ 立米パーセコンドっていうのがあるんですけど、
0:55:28	この数字ってのは予測解析の流入量は 7969 立米。
0:55:35	日を秒単位に変えたやつで考えていいですか。
0:55:42	中国電力のイハラですはい予測解析の結果を、
0:55:46	ではなくて予測解析結果をもとに設定したユーザー揚水ポンプの。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:55:51	能力をそのままはい。毎秒に換算した数字が、そういうことですか。排水の下に書いてあるように給配水能力なんですよね。わかりました。予測解析の結果から設定した排水能力ってことですね。
0:56:06	はいそうです。
0:56:07	はい、わかりましたそれとあと、
0:56:10	資料 10 番。
0:56:14	なんですけど、
0:56:17	これは単にちょっと記載だけお聞きしたいんですが、100、例えば、
0:56:22	100 ページからずっとこういろんな断面検定結果が出てるんですが、このタイトルで、検討ケース 1 とか検討ケース 2 とかっていうふうに入ってますよね。
0:56:35	これは解析係数、
0:56:37	イコール、
0:56:39	で考えていいんですか。何か言葉を分けられた理由って何かあります。
0:56:44	はい。中国電力の早田です。こちら、三浦さんのおっしゃる通りで解析ケースになりますので、記載適正化させていただきます。すいませんこれ結構いっぱいあるので、
0:56:56	検討ケースではないかと。突然出てきて説明もなかったもので、今のように解析ケースということで、修正をお願いします。
0:57:05	はい。大変失礼しました。承知いたしました。
0:57:07	はい。私から以上です。
0:57:12	はい、規制庁チギラです他、
0:57:14	よろしいでしょうか。
0:57:17	はい。
0:57:19	では、
0:57:21	次の議題に入る前に、一旦録音の方を停止いたします。
0:57:29	はい。規制庁喜田です。それでは次の説明項目の保管アクセス鉄塔関係について、説明の方をお願いいたします。
0:57:39	中国電力の谷川です。資料 1、指摘事項に対する回答整理表に基づき説明させていただきます。
0:57:47	12 ページのナンバー 111 をご覧ください。
0:57:53	コメント内容は、第 266kV 開閉所屋外鉄鋼は単独の鉄塔と構造が異なるため、水平 2 方向の影響を説明することでした。
0:58:05	回答ですが、資料 3 の 160 ページをご覧ください。
0:58:13	第 266kV 開閉所屋外鉄鋼は、複数の柱と梁で構成され、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:58:20	L字形状であることなど、
0:58:22	鉄塔と構造が異なることを記載し、
0:58:25	161 ページに、
0:58:27	前回のヒアリングで、66kVカシマ支線No. 2 の 1 鉄塔の、
0:58:34	最初は、最初、安全率が最小となる部材の評価を例に説明させていただきました、SRSS法を適用すると。
0:58:45	発生荷重は $\sqrt{2}$ 倍になりますが、
0:58:48	最小安全率が十分に大きいため、屋外鉄鋼の構造健全性は確保されることを追記しました。
0:58:57	ナンバー111 についての説明は以上となります。
0:59:02	はい。規制庁池田です。ナンバー111 の回答については、これで結構ですのでコメントとしては了といたします。
0:59:10	それでは、次の回答をお願いいたします。
0:59:14	中国電力の谷川です。資料 1、12 ページのナンバー113 をご覧ください。
0:59:24	コメント内容は、66kVカシマ支線No. 2-1 鉄塔の支柱材が、新設基礎のつなぎ梁相伴を干渉していることによる悪影響がないことを説明することでした。
0:59:39	回答ですが、既設集材は切断後、切断面に錆止塗装を行い、
0:59:46	コンクリートで養生しており、腐食等の恐れはありません。
0:59:50	季節取材に猪狩材を接続したことから、通常の形状とは少し異なりますが、強度上の影響はありません。
1:00:01	資料 3 の 308 ページをご覧ください。
1:00:07	広報に(4)を追記し、
1:00:10	腐食防止を行っていることを明記しました。
1:00:14	309 ページをご覧ください。
1:00:17	季節季節取材切断図を追加し、
1:00:21	支柱材は、新設基礎のつなぎ梁相伴を貫通していますが、
1:00:26	既設ショウガンとは切り離されていることから、悪影響がないことを明確にしました。
1:00:32	ナンバー113 についての説明は以上となります。
1:00:37	はい。きつイトチクラです。
1:00:40	ナンバー113 について、幾つか確認であったり等、記載の適正化についてお話ししたいと思います。
1:00:50	まず 309 ページの図の 2 なんですけど、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:00:55	ここで
1:00:57	既設の子宮材切断ず、
1:01:00	というのが左上のですね平面図のどの部分の断面を示してるかっていうのがちょっとわからないのでそこを示していただきたいんですけど。
1:01:09	それは適正化していただけますか。
1:01:16	中国電力の谷川です。季節取材切断図が、左側の平面図で、どの位置に当たるか、わかるように明記し、明記したいと思います以上です。
1:01:28	はい。よろしくお願いします。二つ目なんですけど、
1:01:31	切断した後に施工するコンクリート養生っていうのは、あくまでも腐食防止の頭ですね
1:01:42	1 柱材の保護の目的であって、穂積越智抜き等の強度には期待しないと、そういう理解でよろしいですか。
1:01:53	中国電力の谷川です。ご理解の通りで間違いございません。以上です。はい、わかりました。最後三つ目なんですけど白鳥と荒谷施工するつなぎ梁町坂のですね一体化。
1:02:06	はあ猪狩材の見て、
1:02:08	担保させると、そういう理解でよろしいですか。
1:02:15	中国電力の谷川です。猪狩材のみで強度を担保するという理解で間違いございません。以上です。はい。その場合なんですけど、一体感については、何らかの企画、
1:02:28	基づくものなのかっていうことと、
1:02:32	それとも、
1:02:35	何らかですねその引き抜きとか押し抜けとか、
1:02:39	割掛とか、そういった村長に対する、ちょうど評価をしてるのか、いずれか。
1:02:46	どんな形で、そこを担保してるかっていうのを明確に、
1:02:52	していただいて、それを資料に記載していただくカタカナですか。
1:03:10	中国電力の清水でございます。この新設の猪狩材につきましては既設小伴にある猪狩材、その定着のその既設の設計等、同様な
1:03:23	強度を持たすような設計としておりますので、その辺りはわかりますように、こちらの資料に明記したいと思います。以上です。はい、わかりました。
1:03:37	ちなみにあれですか何か規格に基づいているのか、それとも、何らか設定をして共同評価をしてるのかどちらなんですかね。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:03:53	中国電力の清水でございます。申し訳ございませんその辺りもわかるように、資料の方、明記したいと思います。以上です。はい、わかりました。はい、じゃあそのほ。
1:04:06	そこは追記してですね補強していただければと思います。
1:04:11	コメントの 113 番については、内容については理解しましたしましたので了としましてそれで記載の適正化のほうですね、お願いできればと思います。
1:04:24	それでは次のコメント回答お願いします。
1:04:28	中国電力の谷川です。資料 1、12 ページのナンバー114 をご覧ください。
1:04:36	コメント内容は、第 266kV開閉所屋外鉄鋼脚部と基礎の接合部構造を、断面図だけではなく、
1:04:47	平面図も含めて説明すること。
1:04:49	また、集材の基礎コンクリートの定着について健全性を説明することでした。
1:04:56	回答ですが、P1 からP3 鉄鋼に生じる引き上げ力、圧縮力は、視覚材と基礎コンクリートの付着力及び、
1:05:06	猪狩材と基礎コンクリートのせん断力で基礎に伝達されます。
1:05:10	現設計に示す応力に対し、耐震評価で生じる応力が十分小さいことから、
1:05:16	想定する地震力に対し、基礎財投基礎コンクリートは、
1:05:21	健全性を確保できることを、
1:05:23	別紙 13、
1:05:25	第 266kV開閉場、屋外鉄鋼基礎材と基礎コンクリートの健全性についてに記載しました。
1:05:34	資料 3 の 313 ページをご覧ください。
1:05:42	図 1、基礎コンクリート内の四角材及び猪狩材の平面配置図をご覧ください。
1:05:50	第 266kV開閉場、屋外鉄鋼の
1:05:54	P1 からP3 鉄鋼の三つの柱には、
1:05:58	それぞれ 4 本の取材があり、
1:06:00	314 ページの図 2 のように、
1:06:04	集材はすべて視覚材とボルトで接合され、
1:06:08	視覚材は、基礎コンクリートに埋め込まれています。
1:06:13	視覚材は、支柱材とボルト接合され、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:06:16	Bに鉄鋼の場合、赤で着色した部分。
1:06:21	D湾及びP3 鉄鋼の場合、黄色で着色した部分となります。
1:06:27	視覚材には猪狩材を取り付け、隣り合う視覚材同士を接合しています。
1:06:34	313 ページに戻っていただき、表 1、各柱の四角材最大応力をご覧ください。
1:06:43	P1 からP3 鉄鋼の三つの柱は、
1:06:46	01. 設計に示す応力を負担できるように設計されていることに対し、
1:06:53	②、耐震評価で生じる応力は、①と比べて十分に小さい値となっています。
1:07:01	このため、想定する地震力に対し、
1:07:05	基礎台と基礎コンクリートは健全性を確保可能であることを記載しました。
1:07:11	ここで 314 ページ、図に基礎断面に誤記があったため、訂正させていただきます。
1:07:20	図 2 のうち、BB断面P括弧P1P3 ですが、
1:07:26	図面の左上に 1600 と記載していますが、1500 の誤りでした。
1:07:32	また、右上に 1700、
1:07:36	括弧P3 は 1600 と記載していますが、
1:07:39	P3 は、1500 の誤りでした。
1:07:43	最後に、最下部に 6000 と記載していますが、
1:07:47	P3 は 6000 円ですが、P値は 6200 となります。
1:07:52	訂正させていただきます。ナンバー114 についての説明は以上となります。
1:07:58	はい。岸田チギラです。ナンバー114 の回答内容については、こちらで結構ですのでコメントとしては了といたします。
1:08:08	それでは、次の回答をお願いいたします。
1:08:12	はい。中国電力のショウジュです。それでは資料一番回答整理表の 12 ページ、ナンバー112 のコメントになります。
1:08:20	こちらのコメントにおきまして、220kV第 2、島根原子力艦船No. 1 鉄塔の入力事案について、Ss-DとSsN&傾向が異なる理由を説明することと、
1:08:32	コメントいただいてございました。こちらのコメントのまず経緯からご説明させていただきます中は、資料 3 番の補足説明資料 18 ページをお願いいたします。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:08:48	こちらに、当該鉄塔の本体評価に用いる解析を入力地震はS _s -D衛星の案を示してございます。まずS _s -Dにつきまして水平動より鉛直動がかなり卓越していること。
1:09:01	の要因の分析と、
1:09:04	それに対してS _s -N案については、鉛直動が水平動を上回るほど卓越していないということで傾向が異なる理由について分析をし資料化して参りましたのでご説明いたします。
1:09:16	277 ページの、別紙 3 をお願いいたします。
1:09:25	277 ページに今ほどご説明した加速度スペクトルのS _s -DS _s -NRO 水変色をお示してございまして、
1:09:33	こちらの要因分析として次ページ以降にお示してございます。
1:09:37	要因分析に当たりまして、当該文、解析モデルにおきまして複数位置の加速度を抽出し、加速度応答スペクトルの比較により、各地点の入れ方を確認しております。
1:09:52	確認された事象の整理といたしまして、二つポツをお示してございます。
1:09:57	藤。
1:09:59	まず 279 ページのS _s -Dによる、
1:10:02	加速度スペクトルをご確認いただきたいと思いますが、
1:10:06	モデルの左側、接点番号 2071、
1:10:12	こちらが、
1:10:13	鉄塔中心地ということでこちらの入力回数自身は入力地震動として入力してございます。
1:10:20	こちらでは水平動青色でございまして約 2000gal、鉛直動が 8000 ガルということで、かなり大きくなっております。で、少し右に行きまして、接点番号 3389 になりますが、
1:10:33	こっちになりますと水平動が若干大きくなりまして 3000 ガル。
1:10:37	熟度が小さくなって 4500gal程度ということで、
1:10:41	斜面から離れることで水平動が若干大きくなって鉛直度が小さくなるという傾向が確認されております。またこちらの 3389 につきましては、
1:10:51	岩盤の地形が、
1:10:54	すり鉢状になっておりましてその上に埋戻どう埋め戻した地形でございまして。
1:10:59	すり鉢状の中央付近では水平動が卓越しやすいということと、先ほどの鉄塔中心位置ではすり鉢状の端部になっておりましてこちらで、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:11:10	鉛直度が卓越しやすいという傾向を確認いたしました。
1:11:15	同様の設定位置でS _s -N案についても加速度を確認しておりまして、次のページにお示ししてございます。
1:11:24	同様に 2071 におきましては、こちら鉛直動。
1:11:29	は、2000gal水平が 3000 ガル。
1:11:33	になりまして、3389 ですね、すり鉢状の中央付近では水平動がかなり大きく 4000 ガル程度ということで、水平動が入りやすい傾向にあることは、
1:11:44	確認いたしました。
1:11:47	ただS _s -DとS _s -N比べた時にS _s -Dの方がすり鉢状の端部で鉛直度が卓越しやすいという傾向の大小が見られております。
1:11:58	この鉛直度が卓越しやすい理由として 281 ページにお示ししてございます。
1:12:05	①に記載しておりますのが、斜面の存在によりまして水平動が抑えられていること。
1:12:11	②については、図にお示ししておりますけれども、保安型の
1:12:16	岩盤の形状により、図にお示ししております通りロッキング現象のように振動して、
1:12:22	すり鉢端部では、鉛直動が卓越しやすいということで分析をし、しております。
1:12:29	またS _s -DとS _s -N案において傾向の大小があることについて 10 ページで記載しております。
1:12:36	傾向の大小についてそもそものS _s の比較をしておりまして、S _s -Dにつきましては、表にお示ししております通り水平動がS _s 全般の中で最大鉛直動も最大、
1:12:48	という特徴がございます。
1:12:51	精査、N湾については、水平動はS _s -Dに次ぐ 2 番目ですけれども鉛直動は 5 羽のうち最小ということで、
1:12:59	本吉先生の案は、水平動が卓越しやすいという傾向があるというふうに考えております。
1:13:06	衛藤最後、もう一度整理させていただきますと、斜面や岩盤の地形の影響によりまして、鉄塔付近で鉛直度が卓越しやすいと。
1:13:15	いう傾向がS _s -D、S _s -N湾ともに確認されております。ただS _s -N案自体が、水平動が卓越しやすい地震はということで、
1:13:25	鉛直が水平を上回るほど、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:13:29	には至っていないということで分析をして参りました。
1:13:33	こちらについてご説明以上になります。
1:13:38	はい、規制庁チギラです。それでは、今の説明に対して確認する点がある方。
1:13:52	規制庁大橋です。回答どうもありがとうございます。
1:13:56	ちょっと小さな話なんですけど、通し番号 279 ページと、
1:14:01	280 ページの、
1:14:03	青砥スペクトル図で、
1:14:05	これSTEP書く時の、
1:14:08	計算するときの減衰が書いてないので、
1:14:12	5%だと思いますけど。
1:14:14	それぞれのスペクトル図に書くのは大変なので、
1:14:19	下の図のタイトルのところに、
1:14:22	H=0.05 なり 5%なりを書いといてください。
1:14:30	まずS _s -Dで、
1:14:35	鉄塔のどころの
1:14:38	オートスペクトル図と、
1:14:41	同案の地層が深いところのスペクトル図を比べると、
1:14:46	水平と鉛直のう。
1:14:49	補正分の間違ひがあるってということで、
1:14:52	この地層の傾斜によって、
1:14:55	鉄塔の斜めのところが、
1:14:59	鉛直成分が卓越したっていうのは、この資料でわかりました。
1:15:05	一つちょっと確認なんですけど、281 ページに、
1:15:10	これがこの湾のところで、
1:15:12	ロッキング現象。
1:15:14	みたいに振動したっていう具合に書いてるんですが、
1:15:18	ちょっとこれ、
1:15:19	ちょっとイメージが先行すると。
1:15:22	本当にスロッシングみたいに、
1:15:25	左右に振れるような、
1:15:28	イメージが出るんですが、それって、例えば変形図を見たりなんかすると、
1:15:33	そういう、
1:15:35	現象が見てとれるということなんですか。私のイメージとしては、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
発音者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:15:40	下から地震動が上に上昇していくときに、
1:15:44	地層境界のところ、
1:15:46	AVSガー異なるところで、
1:15:50	まあまあ上がっていくっていう、そういうイメージかなと思ってたんですが、実際どういう現象かも、ちょっと説明してもらえないでしょうか。
1:16:03	はい。中国電力の小路です。まず減衰につきましてはこちらで5%で書いておりますのでそちら記載したいと思います。
1:16:11	2点目の、281ページの減少ですけれども、
1:16:17	岩盤の、青色が、こちら第3足になりまして硬いものの上に埋戻量があるんですけどもこちらが、地震によって揺りかごのように揺れるイメージで、
1:16:30	こちらを記載しております3389人、接点番号3389の案の中心については水平動が卓越しやすいということで横揺れ、
1:16:39	のイメージなんですけれども、鉄塔付近では若干斜めのユリ型になるのかなというふうに考えています。以上です。
1:16:52	規制庁大橋です。
1:16:53	うん。ちょっと
1:16:56	そういうアニメとかアニメーションみたいなのが見せてもらえれば、納得はするんですが、ちょっとわかんないんで、原因としては地層が、
1:17:07	斜めになってるということで理解しました。もう一つSSねNRの件で、
1:17:14	282ページには、
1:17:17	水平動の値がMACCS620ガルで、
1:17:23	鉛直が320galたっているぐらいで、
1:17:27	回答していただいたんですが、
1:17:30	これ、ちょっと私
1:17:32	基準地震動の、別の資料を見ると、
1:17:37	解放基盤表面での
1:17:40	Ss-N案を見ると、実際Ss-N案って、
1:17:45	震源を特定せずのルームはなので、丸尾はてちょっと周波数成分が少し変わった。
1:17:54	並みになってて、
1:17:56	さっき最初に説明してもらった。
1:18:00	18ページの、
1:18:04	あ、すいません、10、19ページの方に、
1:18:07	これ鉄塔で入力スルー時のSs-N案っていう、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:18:12	の、
1:18:14	加速度応答スペクトルを書いてもらったんですが、
1:18:18	解放基盤表面でのS _s -N湾の
1:18:22	スペクトル図を見ても、大体もともとこういうような水平動で大体0.
1:18:30	5秒ぐらいの周期が、
1:18:32	即鉛直成分に比べて、その周波数体ではですね、8倍とか9倍ぐらい、もともとこういうような、
1:18:42	形をしている波だったので、
1:18:45	仮に地盤が鉛直成分が増幅されるような地盤であっても、
1:18:52	もともと解放基盤表面での水平、
1:18:57	頭のスペクトルがこの成分でなかったってことで、
1:19:02	自分地層の地盤の影響がそこまで及ばなかったっていう感じで、
1:19:08	原因はそうなのかなと思って理解しました以上です。
1:19:13	はい中国電力李です。まさに今おっしゃった通りで、ちょっとどちらで説明しようかなというのは悩んだんですけども、この基準地震動の表で説明するのが一覧になってるんでわかりやすいかなという感じです。
1:19:25	そっから引き戻すとですね、言われたように周期体で見ると、
1:19:30	かなり留萌はS _s -N案がですね、水平が卓越してるっていうことが一つの着眼点になってます。以上です。
1:19:39	はいどうもありがとうございます。
1:20:04	はい。
1:20:05	規制庁近田です。はい。それでは今のコメントの113番については了としたいと思います。
1:20:15	それでは、
1:20:17	続いて説明。
1:20:19	があればはい、説明の方をお願いいたします。
1:20:22	はい。中国電力の荘司です。コメント回答以上になりまして適正化しているものについて主要なものをご説明させていただきます。
1:20:32	資料一番回答整理表の、
1:20:35	15ページお願いいたします。
1:20:43	まずナンバー500になりまして、
1:20:46	こちらにつきましては修正時AGIによる、
1:20:50	ひずみ依存特性について適正化しておりますのでご説明いたします。資料3番補足説明資料の
1:20:57	50ページをお願いします。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:21:06	あと鉄塔の耐震評価におきましては地震応答解析の際にASRをモデルにより作成したひずみ依存特性、埋め戻したとD級岩盤のひずみ依存特性を用いて解析しております、
1:21:19	その後設工認の中で土木構造物については修正GHモデル。
1:21:24	より作成したひずみの特性を使用するということでご説明しておりましたので今回整理して使用化しております。
1:21:32	地盤の申請に係る基本方針に記載しておりますのが、修正ROモデルによる、
1:21:40	作成したひずみ依存特性と、
1:21:43	設工認の中で説明しております修正じじいモデルによるひずみ依存特性になります。
1:21:48	修正G1モデルと、修正アローモデルの
1:21:53	ひずみ依存特性の比較を次の51ページにお示ししております、
1:21:59	修正GHモデルでは、埋め戻しできる岩盤とともに高ひずみの領域におきまして剛性低下が大きくなっておりまして、地震時ドウツウ、
1:22:10	及び地震ごとの観点から保守的に、
1:22:12	GHの保守的になると考えております。まず、一方で2級岩盤については、修正ROの方が、高ひずみの領域で減衰が、
1:22:24	小さくなるということでこちらについては鉄塔の周りにD級岩盤が厚く分布しておりますので地震時の応答が、
1:22:34	あるオノが大きくなる可能性があるということで、鉄塔については、2次元で、を取り出すものについてGHモデルとROモデルによる解析を、
1:22:45	結果を比較し保守的な音を用いることとして、しております。
1:22:51	その比較結果については示しておりますのが、
1:22:57	57ページをお願いいたします。
1:23:06	あと57ページに220kV No. 1鉄塔の修正Rモデルと修正G1モデルによる、地盤応答解析結果の比較を示しております。
1:23:16	図にお示しておりますが、赤色が修正ROモデル黒色が修正Gモデルになります。この鉄塔のこういう周期におきまして修正ROモデルの方が、
1:23:27	応答が大きくなっておりますので、保守的なホットイシューということで修正あるモデルを採用し、こちらの応答で
1:23:36	220kV No. 1鉄塔の評価を行うこととしました。
1:23:41	その他にも220kVのナンバー2鉄塔と、66kV No. 1鉄塔につきましては、2次元応答解析による、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:23:50	応答により本体評価と基礎評価を行っておりまして、同様にGHモデルとアローモデルの
1:23:58	応答を比較した結果、すべてにおいて、ROモデルの方が保守的という結果になりましたので、アローモデルによる応答を使用することとしております。
1:24:10	御説明じゃなりません。
1:24:15	はい。規制庁チギラです。それでは、今の説明について確認する点がある方。
1:24:25	はい。
1:24:28	すいません 57 ページとかで比較しているのはこれ、
1:24:33	ただ単にそのROモデル等流域モデル、
1:24:37	の
1:24:39	違いだけを比較してる他、何か違うってあるんですか。
1:24:44	解析条件につきましてはそのひずみ依存特性以外はすべて同じでありまして、ブロード中とD系のひずみ依存特性だけを変えて解析をしていると。
1:24:54	ことになります。以上です。
1:24:57	はい、わかりました。
1:25:01	はい。
1:25:02	よろしいでしょうか。
1:25:05	はい。
1:25:06	それでは立木の適正化の説明をお願いします。
1:25:10	はい。
1:25:12	続きまして、一番回答整理表中、
1:25:16	中国電力の荘司です。
1:25:18	続きまして、
1:25:19	回答し整理表、15 ページの
1:25:25	504 番と 505 番と同じ該当箇所になりますのであわせて回答させていただきます。
1:25:33	すいません、適正化箇所を説明させていただきます。
1:25:36	補足説明資料 61 ページをお願いします。
1:25:49	こちら 220kVナンバー2 鉄塔の評価対象断面の選定ということで南北断面と東西断面の比較をお示ししておりまして、
1:25:59	こちらの断面の設定方法について記載を拡充しておりまして、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:26:03	また、両者の比較として、地震応答解析結果の比較により、断面を選定しておりますのでご説明いたします。
1:26:12	まず南北断面につきましてははずー1.1. 10 の 21 にお示しております斜めの断面でございますが、こちらについては、当該鉄塔周辺で斜面が急勾配であり、斜面の比高差が約 90 メートルで大きいことから、
1:26:27	地形の観点から地盤が大きくなる断面ということで考えております。
1:26:32	当然断面につきましては、斜面の日講座 60 メートル程度でございますが南北断面より小さいんですけども、
1:26:39	敷地全体が東西水平成層であることを踏まえまして、
1:26:43	速度層構造の観点から、地盤音が大きくなりやすい断面ということで、
1:26:48	考えております。
1:26:50	次の 62 ページにH両断面の地質断面図をお示しておりますが、
1:26:58	地質断面図ではどちらが地盤が応答が大きくなりやすいかということで交通がつけがたいということでこちら、両断面の、
1:27:06	地盤応答解析を実施しまして、
1:27:11	その結果により断面を選定しております。その結果が 66 ページ、お願いします。
1:27:22	66 ページに比較結果をお示しております、赤色が南北断面で、黒い色が東西断面になります。当該鉄塔の固有周期におきまして南北断面の方が、
1:27:34	東西断面よりも大きな音ということでこちら、南北断面を、評価対象断面等を選定して、
1:27:42	衛藤本田イトウ木曾の評価を実施しております。前回まで東西断面を、定性的に選定して、
1:27:48	評価しておりましたので一オカ対象断面が変わったということで本体評価と、
1:27:54	来さんの評価の結果が変わっておりますので、このままについてご説明いたします。
1:28:00	補足説明、資料 3 番の補足説明資料 35 ページお願いします。
1:28:12	衛藤。
1:28:13	気持ちがついている表 1.1. 9-1 に出荷安全率の一覧を示しております、一番下のよう、220kVのナンバー2 鉄塔の支柱材と伏在の安全率を示しております。
1:28:27	1 柱材が 1.17、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:28:30	福沢が 1.14 という結果になっておりまして、1.0 を上回っていることを確認しております。
1:28:36	ちなみに前回の東西断面では 1.21 と 1.20 ということで若干下下がっております。
1:28:44	続いて基礎についてです 86 ページをお願いいたします。
1:28:56	とこちらに基礎の曲げせん断応力調査結果と、次のページに、イソダ伊奈縮支持力引き上げ支持力の照査結果をお示しております。こちら照査値による照査になりましてちょっと最大のものだけ抜粋してご説明させていただきますと、
1:29:11	まず、86 ページの基礎台の曲げ剪断応力調査結果については、
1:29:17	コンクリートのせん断応力度の
1:29:20	テイキヤク集客 0.87 が最大となっております、こちら前回の照査値が 0.76。
1:29:26	集客が 0.89 ということで若干変更がございます。
1:29:31	続きまして次のページの 1.1. 11-5 の表になりますが、
1:29:37	こちらについては縮支持力最大のものが、集客の 0.77 で、
1:29:43	前回の断面では 0.86 ということで変更がございました。
1:29:48	また引き上げ支持力についても、AB客の 0.72 が最大となっております、前は 0.70 ということで若干変更しております。
1:29:57	いずれにおきまして照査値 1.0 を下回っていることを確認しております。
1:30:01	こちらについて以上になります。
1:30:06	はい。規制庁、日浦です。今、説明がありました適正化課長。
1:30:11	内容について確認する点がある方。
1:30:15	よろしいですか。
1:30:17	はい。それでは次の説明の方お願いします。
1:30:21	はい。中国電力の荘司です。資料一番回答整理表の
1:30:28	18 ページ、お願いします。
1:30:33	ナンバー538 の適正化になります。こちらについては、別紙の 9 にお示ししております、301 ページをお願いいたします。
1:30:57	301 ページに 220kVナンバー2 鉄塔基礎のAC力算出結果ということでお示しております。①基礎の圧縮耐力QC算定の際の、C、
1:31:10	基礎台底面下にある地盤の支持粘着力 $c=50\text{kN}\%$ スクエアメートル。
1:31:17	ということでこちらの根拠が記載できておりませんでしたので、今回既発で記載している部分に記載をしております。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:31:26	こちらのCコール 50 につきましては、
1:31:30	島根サイトが新第三期中新世の堆積岩で構成されるため図 1 にお示ししております文献を踏まえまして、保守的な粘着力としてC=50 を採用しております。
1:31:42	なお図 1 に、あわせて地質断面図をお示しておりますが、鉄塔基礎周辺にはD級岩盤が分布しております、
1:31:51	地質調査結果を踏まえて地盤の申請の方にお示しております通りC郡 110 ということで、今回の支持力算出結果に持ち出し=50 が保守的な設定になっていることを確認しております。
1:32:05	適正化について以上になります。
1:32:09	はい。規制庁チギラです。それでは、
1:32:12	今の話なんでちょっと確認させてください言うと、
1:32:16	この 301 ページのところで、
1:32:20	この島根材との人員、
1:32:25	第 3 期中申請の話と、この図 1 の話。
1:32:31	この関係ってどういうふうに見ればいいのかっていう話と、
1:32:36	この図 1 のですね左側のところ、赤い、
1:32:40	前 05 とかですね比嘉の、多分加筆してるんだと思うんですけど、
1:32:45	この何ですかね、
1:32:48	図の見方っていうかですね、これをどう解釈すればいいかっていうところなんですけどそこについてちょっと説明いただけますか。
1:32:59	はい中部電力李です。こちらの解釈ですけども、まず南岸の調査設計施工の基本と事例っていう土木学会の年を参考にしております、
1:33:11	ちょっと抜き出してしまってるんですけどこの図自体がですね、新第 3 系の岩盤を対象にですね泥岩だったり砂岩だったり、そういったものの一軸圧縮よさっていうのをまとめたものですよっていう文献になってます。
1:33:26	ちょっとそこは書ききれてないのでそこは加筆したいと思います。
1:33:30	今おっしゃったように、この赤線っていうのは加筆というか追求したものになってございますけども、
1:33:38	見ていただくと下の方に点が密集しております、
1:33:42	大体最低値でいうと、単位でいうと 5kg。
1:33:46	%センチメートル以上。
1:33:48	ぐらの値をとっているということで、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:33:51	こういった文献に基づきまして当初、C=50kNパーメートル以上ということで設定していたものでございます。
1:33:59	お答えになっておりますでしょうか。はい。
1:34:02	このナカシマでサイトの、
1:34:05	地質、
1:34:07	当間、
1:34:08	何だろう、マッチするとかこの
1:34:11	調査結果がここに該当するとかそういう話っていうのももうちょっと何か大局的に見るっていうことなんですか。そうですね。中部電力よりです。今おっしゃった通りで、こちらは凝灰岩とか砂岩とか泥岩とか書いてありますけども、
1:34:25	第3系という括りでいうと、同等であるというふうに当時考えてですね、そういう設定をしておりました。はい。
1:34:34	すいません。中国電力鹿島です。1点補足ですが今ユリが申しましたように、新第3系というところで紐付けて、括弧後半って書いてあるのと、あとの文献の南岸というところで、
1:34:45	ちょっとわかりにくくなってるのかもしれませんが、
1:34:49	新第3系の岩盤であることと今回できるとか定義の岩級ですので、そういったところで、
1:34:55	何、何レベルの物性のものも参考に、
1:34:59	設計に取り入れているということで、記載させていただいておりますちょっと誤解を招くような記載になっていけばちょっと今年書き方ですね、工夫させていただきたいと思っております申し訳ありません。
1:35:11	はい、わかりました。ちょっとせ、考え方とかですねこういった解釈とか、その辺の
1:35:20	わかるようにしといてもらったらちょっと誤解がないような形でいただければと思っております。
1:35:28	他、
1:35:29	この図、大丈夫ですか。
1:35:33	はい。
1:35:34	では、そこはちょっと適正化をお願いします。
1:35:39	では、次の説明をお願いします。
1:35:44	中国電力の谷川です。資料1、14ページのナンバー495をご覧ください。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:35:54	コメントの内容は、鉄塔耐震評価は、地震応答解析と風荷重解析を組み合わせた評価としていることを明確にすることでした。
1:36:05	回答ですが、資料 3 を 35 ページをご覧ください。
1:36:12	220kV第二島根原子力艦船No. 1 及びナンバー2 鉄塔の場合、改正結果の上から 4 行目に、
1:36:21	られた地震荷重と風荷重解析を実施し、
1:36:26	えられた風荷重等を加算し耐震評価における発生荷重としたことを追記しました。
1:36:33	同様に、66kVカシマ支店、ナンバー2-1 鉄塔は、資料 3 の 111 ページに記載しております。
1:36:43	第 266kV開閉所屋外鉄鋼は 160 ページに、
1:36:48	通信用無線鉄塔は 225 ページに同様の部分を追記しております。ナンバー495 についての説明は以上となります。
1:36:58	はい。
1:36:59	今、説明がありました内容について確認する点よろしいですか。
1:37:03	はい、それでは次お願いします。
1:37:07	中国電力の谷川です。資料 1、15 ページのNo.506 をご覧ください。
1:37:15	コメントの内容は、220kV大に島根原子力艦船ナンバー2 鉄塔基礎部が独立しているが、モデル化の考え方。
1:37:26	境界条件について追記することでした。
1:37:30	回答ですが、資料 3 の 74 ページをご覧ください。
1:37:38	220kV台に島根原子力艦船ナンバー2 鉄塔基礎解析モデルを修正した上で、
1:37:46	73 ページに、
1:37:48	地盤反力については、基礎相伴底面及び基礎中退部側面に線形の地盤ばね要素をモデル化しと記載し、
1:37:58	モデル化の考え方と境界条件を追記しました。
1:38:03	同様に、220kV台に島根原子力艦船No. 1 鉄塔について、資料 3 の 70 ページをご覧ください。
1:38:15	地盤反力については、鋼管杭基礎相伴及びつなぎ梁の側面、並びに鋼管杭下端に線形の地盤まで要素をモデル化しています。
1:38:29	66kVカシマ線ナンバー2-1 鉄塔についても同様な修正を行っております。
1:38:35	No.506 についての説明は以上となります。
1:38:39	はい。規制庁日浦です。それでは今のナンバー506。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:38:44	よろしいでしょうか。
1:38:46	はい。はい。それでは次の説明をお願いいたします。
1:38:52	中国電力の谷川です。資料 1、16 ページのナンバー509 をご覧ください。
1:39:01	コメントの内容は、220kV第二島根原子力艦船No. 1 鉄塔の鋼管杭引抜き抵抗力の注記を適正化すること。
1:39:11	また、別紙 8 短杭の引き上げ支持力の計算式の出典と整合がとれていることを確認することでした。
1:39:21	回答ですが、資料 3 の 81 ページをご覧ください。
1:39:27	表 1.1. 10-16 中の引抜き抵抗力に※1 を記載しましたが、現状注記を、
1:39:37	鋼管杭の縮支持力と記載しておりますが、正しくは、鋼管杭の縮支持力及び引抜き抵抗力ですので、修正させていただきます。
1:39:52	資料 01、16 ページに戻っていただき、No.509 をご覧ください。
1:40:01	電共研第 58 巻第 3 号と、建築基礎構造設計指針における杭基礎の支持力算出式の整合について確認しました結果、
1:40:12	禁忌時に、周面摩擦抵抗力を三分の 2 とするか否かの差のみで、
1:40:18	先端支持力と周面摩擦
1:40:21	力ともに、L字に対する係数は同じとなっております。
1:40:27	資料 3 の 84 ページをご覧ください。
1:40:32	220kV、第 2 島根原子力艦船No. 1 鉄塔基礎の、
1:40:37	引抜き抵抗力最大照査値は 0.2 日ですが、
1:40:42	建築基礎構造設計指針に準拠し、
1:40:45	引抜き抵抗力を三分の 2 とした場合でも、
1:40:48	最大照査値は 0.32 となり、鉄塔の耐震性に影響がないことを確認しました。
1:40:56	No.509 についての説明は以上となります。
1:41:00	はい。規制庁チギラです。ここについてですけど、ちょっと確認なんですけど、
1:41:09	今回その電共研のですね
1:41:13	第 58 巻というものを、
1:41:16	に、それを参考にして
1:41:20	引抜き抵抗力とか熟見力っていうのを出しているんですけど、
1:41:24	基本的には建築基礎構造設計指針と内容は変わらないということであれば、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:41:33	適合性審査の観点からいうとですね、
1:41:38	この建築構造、基礎構造設計指針って耐震設計における設工認ガイド、
1:41:44	適用実績がある。
1:41:47	規格基準類っていうことで書かれていますので、
1:41:51	そちらの方が、説明がスムーズかなと思うんですけど、どうしてもこの電共研ということであればですねその同等性とかですね、その辺
1:42:07	やっぱり何か、
1:42:09	聞かれたときにちょっと説明するのに、ワンクッション要るのかなあとは思うんですけど、その辺についてはどのようにお考えですかね。
1:42:26	中国電力の谷川です。今ご指摘いただきました通り、規制建築基礎構造設計指針に準拠するような形の記載として、
1:42:36	修正を行いたいと思います以上です。はい、わかりました。評価としても徳田この電共研のものを使わないといけないっていうわけでないのであれば、ちょっと
1:42:51	今日、
1:42:53	内容でですねちょっと検討いただければというふうに思います。
1:42:57	5分。
1:43:01	はい。中国電力のタニガワで承知しました。はい。
1:43:05	ではそこは適正化の方をお願いします。それでは
1:43:10	次の説明をお願いします。
1:43:13	中国電力の谷川です。資料 1、17 ページのNo.521 をご覧ください。
1:43:23	コメントの内容は、66kVカシマ地点ナンバー2-1 鉄塔の地震応答比較結果において、鉛直動の影響は軽微とした理由を追記することでした。
1:43:37	回答ですが、66kVカシマ自然ナンバー2-1 鉄塔の事業と比較結果において、
1:43:44	鉛直動の影響は軽微とした理由を追記しました。
1:43:49	資料 3 の 125 ページをご覧ください。
1:43:56	事業と比較結果の上から 6 行目に、
1:44:00	鉄塔は水平方向の幅に対し、鉛直方向の高さが著しく大きい構造物であるため、
1:44:08	耐震評価においては、転倒モーメントが増大する水平方向の地震力に比べ、
1:44:14	転倒モーメントがほとんど生じない、鉛直方向の地震力の影響は軽微である。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:44:21	と、鉛直度の影響は軽微とした理由を追記しました。
1:44:26	No.521 についての説明は以上となります。
1:44:32	はい。規制庁チギラです。今の、
1:44:34	内容について確認する点がある方。はい。よろしいですね。はい。それでは、次の説明をお願いします。
1:44:43	中国電力の谷川です。記載適正化箇所につきましての説明は、先ほどのナンバー、
1:44:51	521 が最後となります。
1:44:54	別件となりますけれども、本補足説明資料で使用する計算機プログラム解析コードの概要、使用実績について、
1:45:04	説明させていただきたいと思います。
1:45:07	先般、計算機プログラム解析コードの概要に関わるヒアリングを実施いただき、いただいた際、
1:45:14	220kVNo. 1No. 2 及び 66kVカシマ線、ナンバー2-1 鉄塔基礎耐震評価のうち、
1:45:25	3次元静的FEM線形解析で使用している。TDアップⅢバージョン3.04。
1:45:32	及びすべての鉄塔と鉄鋼について、一次元地震応答解析による入力地震動の算定に使用しています。
1:45:41	SHAKEバージョン 2.0 について、
1:45:44	主要実績はありませんが、解析コードの概要と、
1:45:48	妥当性確認の詳細を示していませんでしたので、
1:45:51	今後改めて説明させていただきたいと思います。
1:45:55	説明は以上となります。
1:45:59	はい。
1:46:00	とりあえず、今の解析コードの話はこれは補足の中で説明しているという扱いの中で、補足のところ、
1:46:11	説明をすると、そういう理解でよろしいですか。
1:46:15	中部電力の谷川ですご理解の通り、本補足説明資料の中で説明させていただきたいと思います。以上です。はい、わかりました。
1:46:24	説明の方は以上でしょうか。
1:46:28	中国電力のタニガワで説明は以上となります。
1:46:31	はい、わかりました。
1:46:33	それでは、テッド関係で黄瀬川から確認する点がある方。
1:46:39	お願いします。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:46:49	規制庁のハツリです。
1:46:51	これは少しちょっとご相談になるんですけども、
1:46:56	資料 03 の 9 ページをお願いします。
1:47:03	これ前にも話があったのかもしれないんで、ちょっと確認なんですけど。
1:47:09	先ほど今回の、
1:47:13	評価においては地震と風を組み合わせますという説明があって、それは今回適正化箇所として、適正化しましたってところがあったんですけど、
1:47:24	この
1:47:27	耐震評価フローっていうのは、これは補足説明資料だけにしか出てこないんでしょうか。
1:47:36	中国電力の谷川です。本耐震評価解析フローにつきましては、
1:47:42	うん。
1:47:43	補足説明資料の中でしか出てこないものでございます。以上です。
1:47:49	規制庁の服部です。
1:47:51	今回その風荷重の扱いなんですけど、
1:47:55	資料の中にもあるように、
1:47:58	ガスト係数を 1.0 にしてるんですよ。
1:48:02	そのことによって地震時どう組み合わせても、
1:48:06	風荷重の本来の荷重の時の設計よりも若干保守、
1:48:13	楽になってるという評価、先ほどの、
1:48:20	基礎、基礎自分、基礎底面の地盤反力みたいなのところも、かなり今回の方が、現設計よりも小さくなってるところでもわかると思うんですけど。
1:48:30	ということなんだというふうに理解してますけれども。
1:48:34	どうしても何だろう地震と風荷重を組み合わせるといふ等、
1:48:40	今までの現設計 2 地震を組み合わせるように、
1:48:44	もう系と、どうしてもここで引っかかってしまうんですよ。
1:48:49	なのこの、
1:48:51	補足し補足にしかないということであれば、この風荷重の計算のところに、
1:48:57	少しコメン等、要するにガスト係数は 1.0 なんですよということを、
1:49:02	こう入れるっていうのは、
1:49:06	ちょっとやり、やり説明しにくいですかどうぞ。
1:49:14	中国電力の谷川です。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:49:17	風荷重の計算のところに、ラストケース 1.0 と記載することには、問題はありませんので追記したいと思います。以上です。
1:49:26	規制庁のフロー規制庁のハットリですこのフローの中に書いても問題ないですか。
1:49:33	中国電力の谷川です。問題ございません。規制庁の八田です。はいわかりました。ではちょっと説明性向上の観点から、それを少し追記していただければと思いますのでよろしくお願いします。
1:49:46	中国電力のタニガワで承知しました。
1:49:49	規制庁のハットリです鉄塔に関しては以上です。
1:49:59	規制庁の服部です。その他で少し確認だけさせていただきます。
1:50:04	これ鉄塔と直接関係ないんですけども、②の資料の、
1:50:09	82 ページをお願いします。
1:50:21	仮設耐震構台の話が(2)に書いてあるんですけども、
1:50:26	仮設構台の評価について、わあ、6-2-11-2 の 13、
1:50:32	に示すというふうに書いてあります。
1:50:40	耐震評価についてはって書いてあるんですけど、
1:50:45	基本的に上部工と言われてる重田、これはおそらく耐震では決まらなくて、
1:50:55	車両通行時に決まるんだというふうに考えてるんですが、
1:50:59	ちょっと 1 点だけその前に確認したいのは、この耐震評価においては、かつ荷重というものは考慮してるんでしょうかどうぞ。
1:51:15	すいません本社側で耐震後退の回答できる方、いらっしゃいますか。
1:51:29	はい中国電力ヨシツグでございます。
1:51:32	すいません今ちょっと資料確認したんですけども、
1:51:38	かつ荷重につきましては地震時についていうことではなくて、仮設耐震構台そのものに対して、
1:51:46	評価をしているかどうかってそういったご趣旨でしょうか。どうぞ。規制庁の八田ですそのそれを確認する前に、
1:51:55	地震時について、勝荷重を重畳させてるかどうかをまず確認したかったんですけどいかがですか。
1:52:02	はい。中国電力ヨシツグでございます。地震時には重畳させておりません。以上です。規制庁のハットリですはいわかりました。そうすると一多分上部工についてはかつ荷重作用時が一番厳しくなるというふうに思っています水平包材は別ですけどね。
1:52:18	その検討というのは、ここの 6-2-11、11-2-13 のところに、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:52:24	入ってるという理解でよろしいですか。
1:52:34	あ、はい、中国電力ヨシツグでございます。
1:52:38	衛藤。
1:52:40	今この資料上、
1:52:43	載せることになると思ってますんで、ちょっと前回までご説明させていただいたのは、まず波及的影響という観点でご説明しておりまして、今後他アクセスルートの
1:52:55	通行性という観点でのご説明が金ほか、
1:53:00	場所アクセスルートの資料の中でご説明することになると思いますのでその中で一体になってご説明になるというふうに考えております。以上です。
1:53:08	規制庁の服部です。ということは、
1:53:11	この6-2-11-2の13の中には、その通行性に関する評価というのはいなくて、あくまでも例えば、地下埋設物の損傷時の評価みたいな形で、
1:53:24	ここのアクセスルート、
1:53:27	保管アクセスのところ経産省が何らかの形でついてくるという理解でよろしいですか。それとも、
1:53:36	たとえバー。
1:53:37	ルートは複数あるので、
1:53:41	通行性という観点ではそれが通行できなくても、
1:53:45	問題ないということをいうふうに説明するのかなとも一瞬思ったんですけど、でもそれをそういう説明をすると、
1:53:52	通行した時にもし動けなくなったら、その可搬設備そのものが使えなくなるので、多分それも駄目だろうということなので、
1:54:00	いずれにせよ、通行性の説明はどっかに必要かなあというふうにも考えてるんですけど。
1:54:07	その通行の生の説明というのはいくまでも保管アクセスの方で、計算書がつくという理解でよろしいでしょうか。
1:54:22	はい。中国電力吉住でございます。ちょっと今、取りまとめの事務、アクセスの取りまとめ事務のメンバーがちょっとおりませんので最終的な
1:54:34	整理はまたご説明になると思うんですけども、
1:54:38	いずれいたしましても橋脚と考えられる仮設耐震構台と端部のところも含めて通行性は確保しないとイケないと考えておりますので、
1:54:49	それらの説明は、今は、保管アクセス側の方の耐震計算、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:54:56	土木ができますと第 2 岩谷トンネルと、
1:55:00	通行性といった観点に耐震性等を説明しているところがあるんですけどそういったところをご説明することを今考えております。以上です。規制庁のハツリですはいわかりましたたてつけというか整理資料の整理についてはまだ今へ、
1:55:15	検討中ということで理解をしましたがいずれにしろ、いずれかの形で通行性についても、必ず計算書をつけて説明があるということで理解をしました。私からは以上です。はあ。
1:55:29	はい規制庁オオハンです。
1:55:31	鉄塔の方の話で、
1:55:34	資料 3 なんですが、
1:55:36	今回
1:55:38	地質構造、地質断面図がついてくると。
1:55:42	大抵鉄塔の基礎直下がD級岩盤っていう、
1:55:47	評価になってて、これ、すでに議論あったかもしれませんが、
1:55:51	例えば資料 3 の、
1:55:54	資料 3 の 124 ページだったら、これは 66kVのナンバー2-1 鉄塔で、
1:56:01	表面 2、
1:56:02	D級岩盤があって、利益を頑張っって斜面をSAF評価すると。
1:56:09	表層的に滑るっていう例が、他のサイトではいろいろあるんですが、
1:56:16	ただ一方資料 3、同じ資料 3 の 113 ページを見ると、ナンバー2 の一位鉄塔基礎IIがあって、
1:56:25	これを見ると、
1:56:27	鉄塔の杭基礎長が、
1:56:30	19 メーターぐらいあって、
1:56:34	この絵を見ると、理想ガンマより下の、
1:56:38	速度層に 2、ちょ、杭径の番で 4 メーターぐらい入ってる。
1:56:44	というようなものがあるって、
1:56:47	また
1:56:50	2000、220kVのナンバー2。
1:56:55	鉄塔については、
1:56:58	これも
1:56:59	表層が、さっきD級岩盤があるっていうのがあって、
1:57:05	てたら 71 ページの解析モデルを見ると、
1:57:09	幕医長が、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:57:12	8メーターぐらいあって、これも下の層に入ってくると。
1:57:22	設計方針として、220kVについては、
1:57:26	表層よりも深い、
1:57:28	岩盤まで、
1:57:30	区域層を伸ばすってことが書いてあるんですが、今回評価している他のいろんな鉄塔もそういう方針で、
1:57:41	やってるかどうかっていうのをちょっと教えていただきたいと思います。
1:57:52	はいすいません。中国電力李です。
1:57:55	今のご指摘は主鉄塔が設置されている斜面の安定性ということで、
1:58:02	その観点から、木曾がD級よりも下の岩盤に根入れされているかどうかという話ですかね、そう考えていただいて結構です。
1:58:12	はい。木曾の年齢の話なんですけども本社側でご説明できる方いらっしゃいますでしょうか。
1:58:46	はい。中国電力ヨシツグでございます。
1:58:49	通常の道路狭小等の送電鉄塔もそうだと思いますけれどもNGイデ、管理をしております、
1:58:59	今回の場合はN値 30 以上であることを確認してそこまでの杭基礎ということで、標準設計をしております。以上でございます。
1:59:10	規制庁大橋です。
1:59:12	はい。今の回答だと、
1:59:15	斜面の安定性評価までは考えていないというような、
1:59:20	形にとらえられるんですがそういうことでいいでしょうか。
1:59:26	すいません中部電力のユリです斜面の安定性ということでございましたら、
1:59:31	のページで言うのですね、
1:59:33	335 ページですね丸さんの資料の 335 ページからで、
1:59:39	鉄塔が設置されている斜面の安定性ということでちょっと今回ご説明はしなかったんですけども、
1:59:46	整理してございまして、336 ページに、
1:59:50	対象の鉄塔ですね、ここで基本耐震評価をやってる程度っていうもので斜面に設置されているものを選んでございまして、
2:00:00	338 ページがその断面図になってございます。
2:00:04	で、モデル等がありまして安全率の結果が 342 ページにありますけども、
2:00:11	例えば 342 ページの上の図がA断面ということでこれが

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:00:17	66kVのナンバー2-1ですね。はい。の鉄塔でございますけども表層のD級岩盤を通るような滑り安定性を確認してございます。
2:00:30	規制庁大橋です。
2:00:32	今おっしゃった三つの鉄塔については、麻痺、安全性を確認しているということで、
2:00:41	理解したんですけど、
2:00:44	何か確か、もうちょっと山の上の方に、
2:00:48	鉄塔があったような、
2:00:51	気がしてですね。
2:01:00	500kV、ナンバー3鉄塔とかも、山の方にあると理解してるんですけども、
2:01:07	これはどうでしょうかね。
2:01:13	中国電力の谷川です。500kVのナンバー3鉄塔につきましては、カツラ評価を実施しております、アクセスルートに到達しないことを確認しております。以上です。
2:01:27	規制庁オオハシです。わかりました。
2:01:32	地震があっても鉄塔が残っているというものについては、斜面の安定性も確認しているということで理解しました。ありがとうございます。
2:01:40	はい。中部電力レース、ちょっと補足させていただきますと、丸さんの資料の4ページの方にですね、JET網羅的に評価してますというフローがありまして、
2:01:51	これ見ていただきますと、今おっしゃった通りで、赤色で書いております耐震評価を行っている程度につきましては、斜面上に設置されているものは、さらにその下のフローに行きまして緑色のところで書いてますけど、
2:02:05	斜面安定性の評価を行うようになっております。
2:02:08	それ以外の鉄塔につきましては、今谷川の方が申したように、右側にフローが流れていきまして、
2:02:16	鉄塔倒壊により送電線がアクセスルートに影響するって、鉄塔につきましては、設備対策でええと、そうじゃない抵当につきましては鉄塔の滑落評価を行って、
2:02:27	アクセスルートに影響しないような、そのことを確認するようなフローになっております。以上です。はい。
2:02:43	規制庁の谷口です。
2:02:45	ちょっと書類記載のところだけですけれども、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:02:55	これはルー2番の資料アクセスルートの添付資料ですけれども、
2:03:01	24ページ目のところに、今回液状可能揺すり込みの検討の部分が記載されてるんですけれども、
2:03:10	これの、
2:03:11	断面図、24ページ目と25ページ目のところ、
2:03:17	これ今回枚数、埋め戻しとのところを検討の対象にしてるっていうところなんですけど、その断面のどこなのかがちょっとよくわからないので、
2:03:29	この表示をもう少しわかりやすくしておいていただければと思います。拡大して書けばいいのかなと思いますので、
2:03:36	24ページ目。
2:03:39	八潮探したんだけどなかなか見つからなくて、基本的には、第一位他エリアのところの小山田穴戸のところと、
2:03:48	それから第2保管エリアの、
2:03:51	断面のところの梅村シノが対象になってるハヤシが書いてあるんですけど、
2:03:55	ちょっとわかりにくいので、ついわかりやすくしておいてください。
2:04:00	はい。中部電力李です。確かにおっしゃるように、かなり足が見にくくてちょっとわかりにくくなっておりますので、ちょっと拡大するか何かちょっとわかりやすいような工夫をしたいと思います。以上です。はい。よろしくお願いします。以上です。
2:04:21	はい。議長チギラです。
2:04:23	保管アクセス関係。
2:04:26	確認する点、よろしいですかね。
2:04:29	はい。
2:04:30	中国電力側から追加で説明する内容ありますか。
2:04:37	はい。中国電力の鹿島です。こちらからご説明以上です。
2:04:43	はい、わかりました。
2:04:45	それでは本日、午後のヒアリングの方を終了いたします。ありがとうございました。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。